

## 市内中小企業景況調査結果（平成27年7～9月）

### 全般的に悪化傾向目立つ

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第2四半期（平成27年7～9月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成27年9月1日

- 調査対象時期

平成27年7～9月期状況、平成27年10～12月期見通し

- 調査回答企業数

市内の建設業7社、製造業6社、卸売業8社、小売業8社、サービス業9社（回収率76%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

#### 【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（4～6月期）では業種によってバラツキがあったものの小幅ながら好転となっていたが、今期（7月～9月）ではすべての業種において悪化傾向となった。小売業では小幅の悪化、サービス業でも悪化したものの±0.0にとどまっている。建設業では悪化し前期のプラス域から一転してマイナス域になっている。製造業ではやや好転したもののかなりの悪化のまま推移しており、卸売業でも悪化している。

先行きについては、卸売業、サービス業では好転するものの、建設業、製造業は悪化のまま横ばい、小売業はさらに悪化するものと予想している。

- 今期（27年7～9月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（27年4～6月期）と比較して、8.6ポイントの悪化となり、D Iでは△18.4となっている。

業種別の業況をみると、サービス業では10.0ポイントの悪化となったものの、D Iでは±0.0にとどまっている。小売業では1.4ポイントと僅かながら悪化しており、D Iでは△12.5となっている。製造業では7.1ポイントと僅かながら好転しているものの、D Iでは△50.0とかなりの悪化のまま推移している。卸売業でも12.5ポイントの悪化となり、D Iでは△25.0まで悪化している。建設業では28.6ポイントの大幅な悪化となり、D Iでも前期のプラス域から△14.3とマイナス域に転じている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると前期（27年4～6月期）と比較すると1.9ポイントと僅かながら好転し、D Iでは $\Delta 7.9$ となっている。業種別にみると、小売業では23.6ポイントとかなりの好転となり、D Iでも12.5とプラス域に転じている。建設業でも28.6ポイント好転し、D Iでも $\pm 0.0$ まで戻している。サービス業では1.1ポイントの好転となり、D Iでは11.1とほぼ横這いながらプラス域で推移している。卸売業では12.5ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 25.0$ となっている。製造業では35.7ポイントの大幅な悪化となり、D Iでは $\Delta 50.0$ までマイナス幅が拡大している。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期（27年4～6月期）と比較して、8.1ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 30.6$ となっている。業種別にみると、サービス業では変化なく、D Iでは $\pm 0.0$ で推移している。建設業では14.3ポイントの好転となったものの、D Iでは $\Delta 28.6$ とマイナス域での推移となっている。小売業では13.9ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 25.0$ となっている。卸売業でも17.9ポイントの悪化となり、D Iでも $\Delta 42.9$ まで低下している。製造業では23.8ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 66.7$ とマイナス幅がかなり拡大している。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（27年4～6月期）と比較して、3.9ポイントと小幅ながら悪化し、D Iでは $\Delta 18.9$ となっている。業種別にみると、小売業では22.2ポイントとかなりの好転となり、D Iでは $\pm 0.0$ まで戻している。サービス業では変化なく、D Iでも $\pm 0.0$ で横ばいとなっている。建設業でも変化ないものの、D Iでは $\Delta 28.6$ とマイナス域での推移となっている。卸売業では12.5ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 37.5$ まで低下している。製造業でも33.3ポイントの大幅な悪化となり、D Iでも $\Delta 33.3$ とマイナスに転じている。

## ●来期(27年10～12月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期と比較して0.5ポイントと僅かながら悪化し、D Iでは $\Delta 18.9$ とマイナス域ながらほぼ横ばいで推移する見通しとなっている。

業種別の業況をみると、サービス業では11.1ポイントの好転となり、D Iでも11.1とプラスとなる見通し。卸売業でも10.7ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 14.3$ とマイナス域にとどまる見通し。建設業・製造業ではともに変化なく、D Iでは夫々 $\Delta 14.3$ 、 $\Delta 50.0$ とマイナス域で推移する見通しとなっている。小売業では25.0ポイントとかなりの悪化となり、D Iでは $\Delta 37.5$ までマイナス幅が拡大する見通しとなっている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、今期と比較して変化なく、D Iでも $\Delta 7.9$ と横ばいで推移する見通しとなっている。

業種別にみると、製造業では33.3ポイントと大幅に好転するものの、D Iでは $\Delta 16.7$ とマイナス域にとどまる見通し。サービス業では変化なく、D Iでは11.1とプラス域で良好に推移する見通し。建設業でも変化なくD Iでも $\pm 0.0$ で推移する見通し。卸売業でも変化ないものの、

DIでは△25.0とマイナス域で推移する見通し。小売業では25.0とかなりの悪化となり、DIでも△12.5とマイナス域に転じる見通しとなっている。

### 〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して13.9ポイントと好転するものの、DIでは△16.7とマイナス域で推移するものと見ている。

業種別にみると、サービス業では12.5ポイント好転し、DIでも12.5とプラスに転じる見通し。卸売業では28.6ポイント好転するものの、DIでは△14.3とマイナス域にとどまる見通し。小売業でも12.5ポイント好転するものの、DIでは△12.5となる見通し。建設業では今期と変化なく、DIでは△28.6で推移する見通し。製造業でも16.7ポイント好転するものの、DIでは△50.0と引き続き大幅なマイナス域で推移する見通しとなっている。

### 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して8.1ポイント好転するものの、DIでは△10.8とマイナス域で推移する見通しとなっている。

業種別にみると、小売業では12.5ポイント好転し、DIでも12.5とプラスに転じる見通し。卸売業でも25.0ポイント好転するものの、DIでは△12.5とマイナス域にとどまる見通し。サービス業では変化なく、DIでも±0.0と良好に推移する見通し。建設業・製造業でも変化ないものの、DIでは夫々△28.6、△33.3とマイナス域のまま推移する見通しとなっている。

### ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、前年同期(26年7～9月期：27.3%)と比較して3.6ポイント低下し23.7%の実績となった。前期(27年4～6月期)実績(34.1%)と比較しても10.4ポイントの減少となっており、やや沈静化の方向にある。投資状況を業種別で見ると、卸売業(37.5%)、建設業(28.6%)において比較的活発に行われている。

来期については全体で13.2%となっており、今期と比較してほぼ半減し全般的に沈静化するものとみている。

### ●経営上の問題点

建設業では、1位「民間需要の停滞」と2位の「請負単価の低下・上昇難」は前期と変化なく、3位には新たに「従業員の確保難」が入っている。製造業では、1位「原材料価格の上昇」に変化はないものの、2位に「需要の停滞」とともに新たに「製品(加工)単価の低下・上昇難」が入り、3位は変化なく「熟練技術者の確保難」となっている。卸売業では、1位「需要の停滞」に変化はないものの、2位には「従業員の確保難」が新たに入り、前期2位の「仕入単価の上昇」は3位となっている。小売業では、1位の「需要の停滞」と2位「消費者ニーズの変化への対応」に変化なく、3位には前期の「大型店・中型店の進出による競争の激化」に代わり「購買力の他地域への流出」が入っている。サービス業では、前期と変化なく、1位「利用者ニーズの変化への対応」、2位「材料等仕入単価の上昇」、3位「店舗施設の狭隘・老朽化」となっている。

## 業 種 別 D I 値 表 平 成 27 年 7 ～ 9 月 期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資金繰り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全産業	38	△18.4	△18.9	△7.9	△7.9	△30.6	△16.7	△18.9	△10.8	2.7
建設業	7	△14.3	△14.3	0.0	0.0	△28.6	△28.6	△28.6	△28.6	△28.6
製造業	6	△50.0	△50.0	△50.0	△16.7	△66.7	△50.0	△33.3	△33.3	△20.0
卸売業	8	△25.0	△14.3	△25.0	△25.0	△42.9	△14.3	△37.5	△12.5	25.0
小売業	8	△12.5	△37.5	12.5	△12.5	△25.0	△12.5	0.0	12.5	0.0
サービス業	9	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	12.5	0.0	0.0	22.2

① 前年同期(平成26年7月～9月)と比較した今期(平成27年7月～9月)の状況

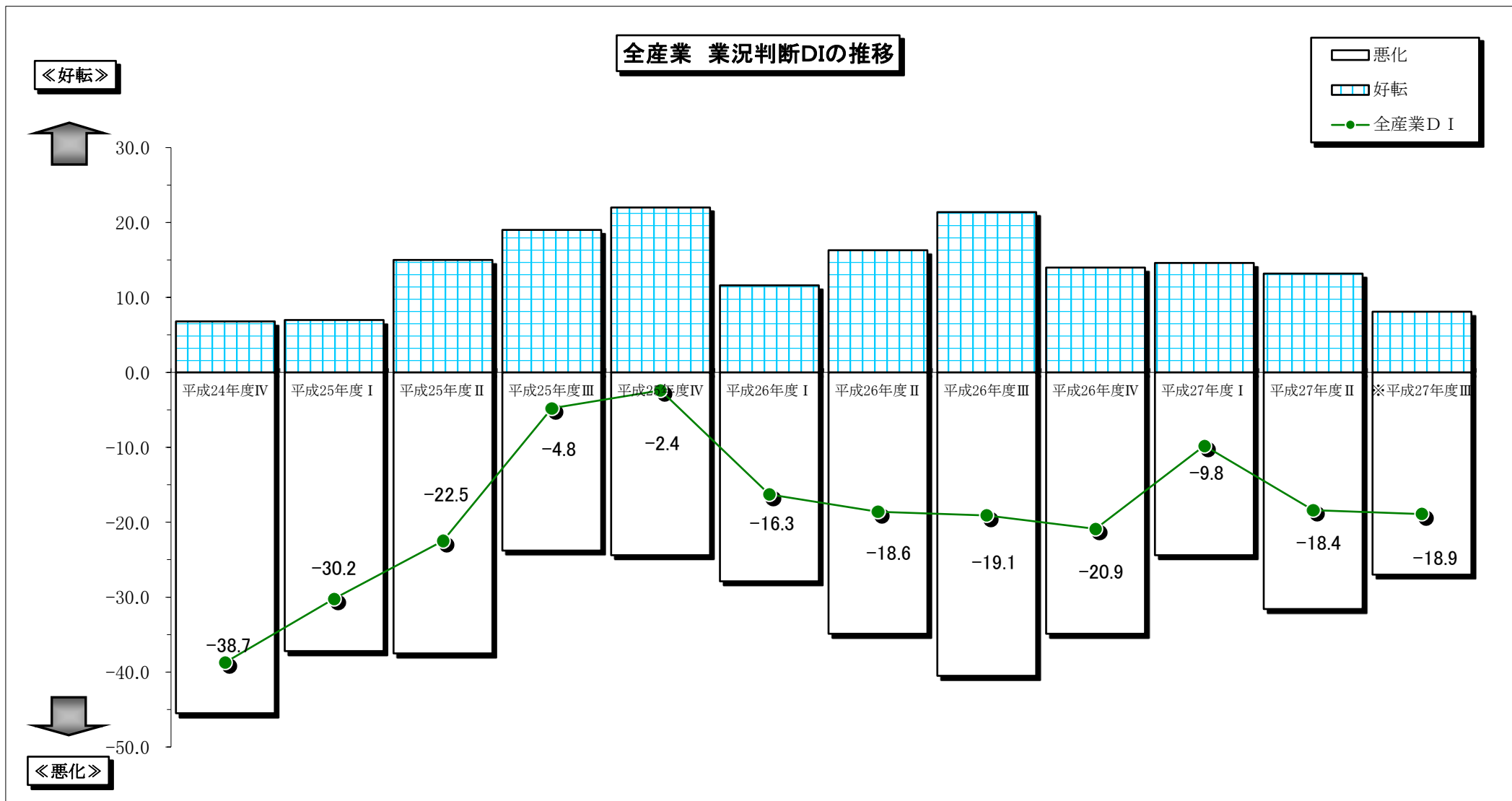
② 前年同期(平成26年10月～12月)と比較した来期(平成27年10月～12月)の見通し

### 直面している経営上の問題点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	民間需要の停滞	請負単価の低下・上昇難	従業員の確保難
製造業	原材料価格の上昇	製品(加工)単価の低下・上昇難 需要の停滞	熟練技術者の確保難
卸売業	需要の停滞	従業員の確保難	仕入単価の上昇
小売業	需要の停滞	消費者ニーズの変化への対応	購買力の他地域への流出
サービス業	利用者ニーズの変化への対応	材料等仕入単価の上昇	店舗施設の狭溢・老朽化

設備投資を今期実施した                      23.7%

設備投資を来期計画している                13.2%



#### 【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I … 4～6月期、II … 7～9月期、III … 10～12月期、IV … 1～3月期

※前年度同期(平成26年10～12月)と比較した来期(平成27年10～12月)の見通し